

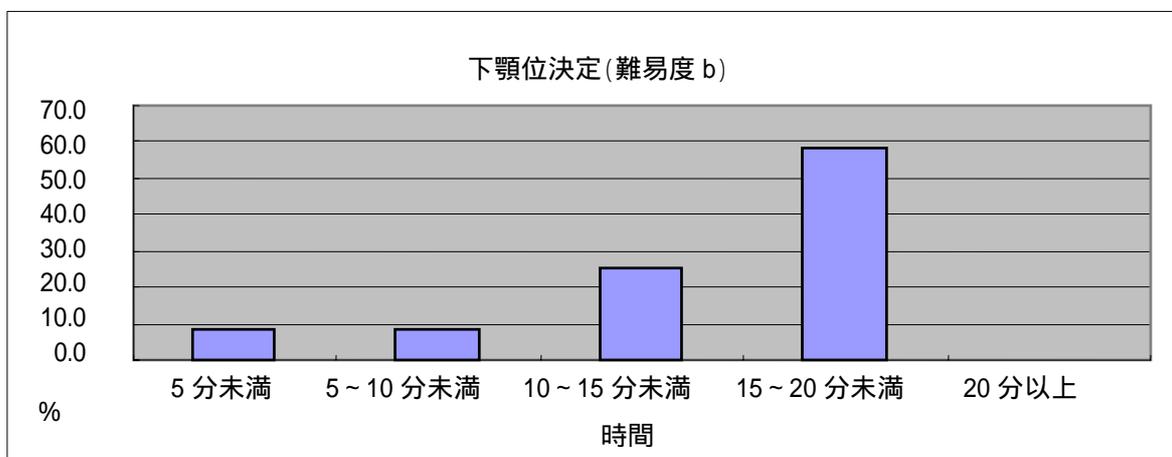
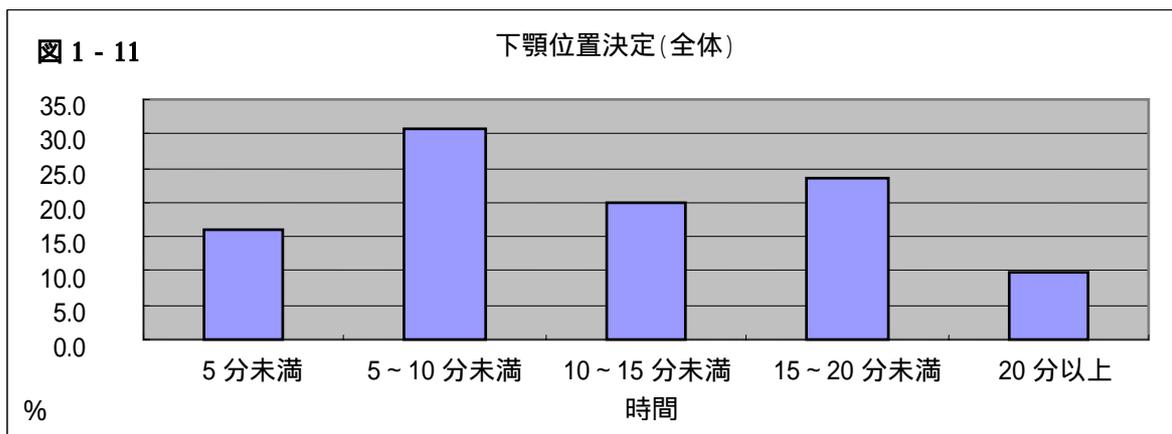
(9) 下顎位置決定に要した時間(分)(表1-4, 表2-10, 図1-11)

本治療の最も重要な操作である下顎位置決定(持続的陽圧呼吸法(nCPAP)での空気圧の調整に相当)については 9.96 ± 5.54 、中央値10分であった。位置決定には様々な方法があると考えられるが、顎を前方に出した状態で維持が可能な位置を探すためには熟練を要する項目であり、調査結果時間は妥当な時間と考える。患者さんによっては下顎を前方に止めておくことが困難な症例もあり、難易度により大きく差が出て当然である。

表2-10 下顎位決定

	総計		難易度 a		難易度 b	
	件数	%	件数	%	件数	%
5分未満	13	16.0	12	17.4	1	8.3
5~10分未満	25	30.9	24	34.8	1	8.3
10~15分未満	16	19.8	13	18.8	3	25.0
15~20分未満	19	23.5	12	17.4	7	58.3
20分以上	8	9.9	8	11.6	0	0.0
合計	81	100.0	69	100.0	12	100.0

平均	9.9	平均	9.6	平均	11.8
----	-----	----	-----	----	------



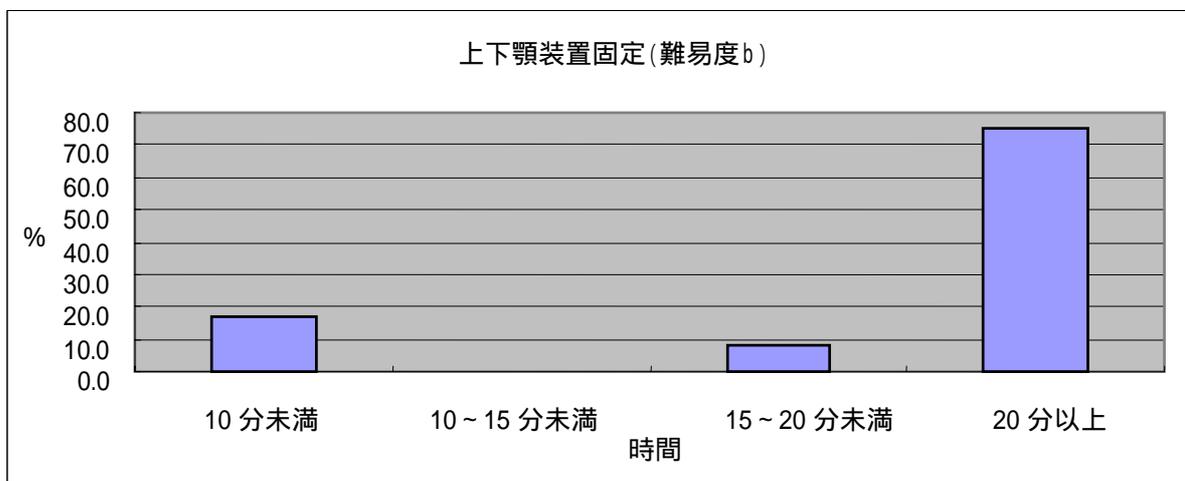
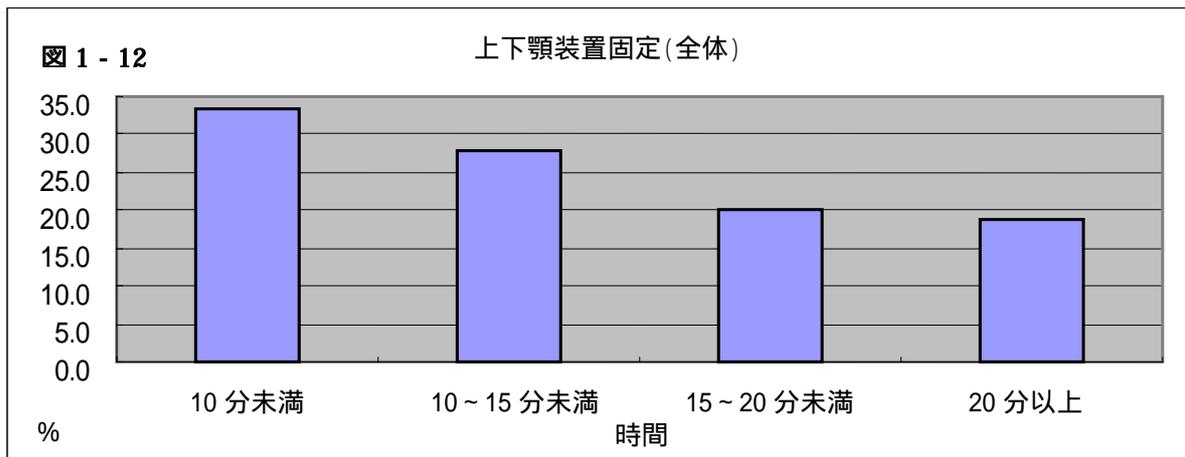
(10) 上下顎装置固定に要した時間(分)(表1-4, 表2-11, 図1-12)

上下顎装置固定に要した時間は平均 10.90 ± 5.12 、中央値 10 分、難易度 b では 21.11 ± 7.82 、中央値 20 分と症例の難易度により 10 分の差が見られた。難易度 a では 15 分未満で 69% を占めていたが、難易度 b では 20 分以上が 75% であった。難易度が高い症例は、決定した下顎位で患者さんが下顎を静止出来ない場合や、前方に顎を移動させる際、習慣的に顎を偏位させてしまい、維持している間に顎関節に疼痛を生じる等、下顎位置決定と共に難易度の高い処置である。

表2-11 上下顎装置固定

	総計		難易度 a		難易度 b	
	件数	%	件数	%	件数	%
10 分未満	25	33.3	23	36.5	2	16.7
10 ~ 15 分未満	21	28.0	21	33.3	0	0.0
15 ~ 20 分未満	15	20.0	14	22.2	1	8.3
20 分以上	14	18.7	5	7.9	9	75.0
合計	75	100.0	63	100.0	12	100.0

平均	12.3	平均	10.7	平均	20.7
----	------	----	------	----	------



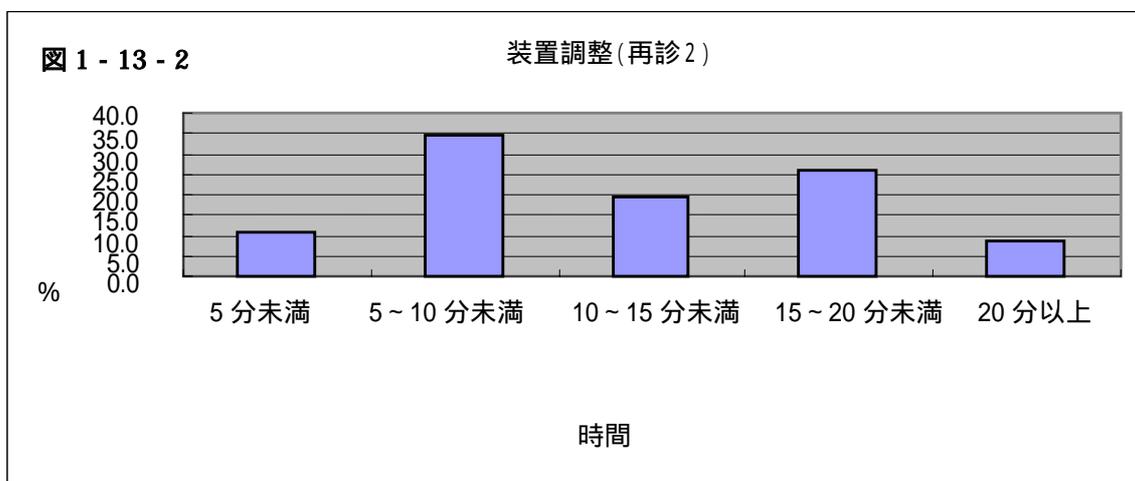
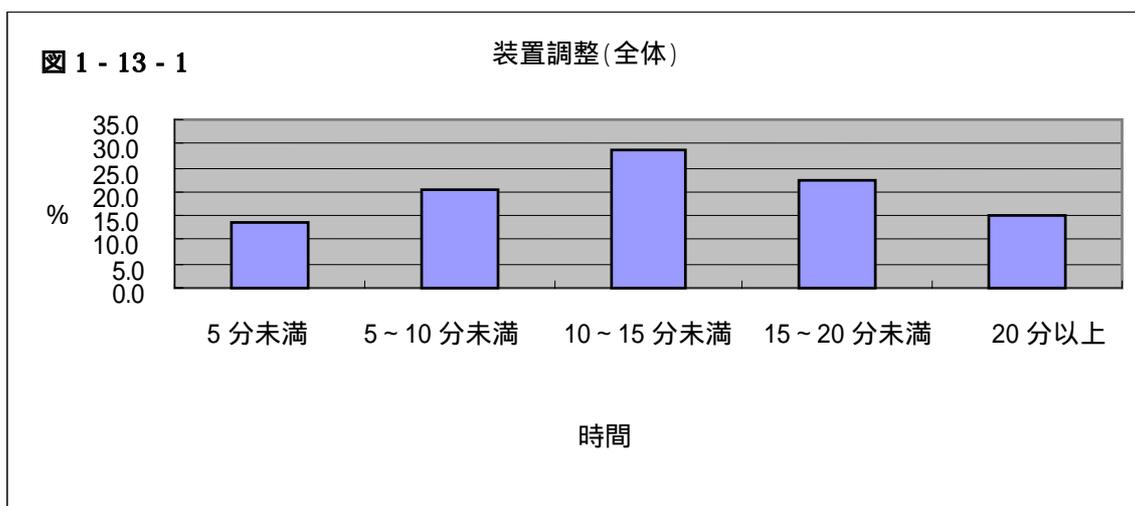
(11) 調整に要した時間(分)(表1-4,表1-5,表2-12,図1-13)

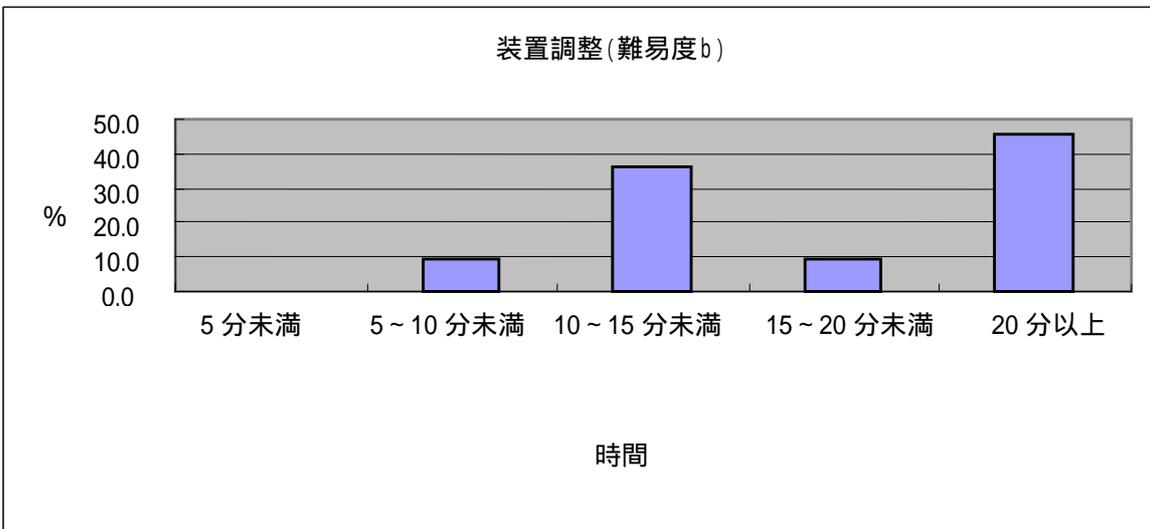
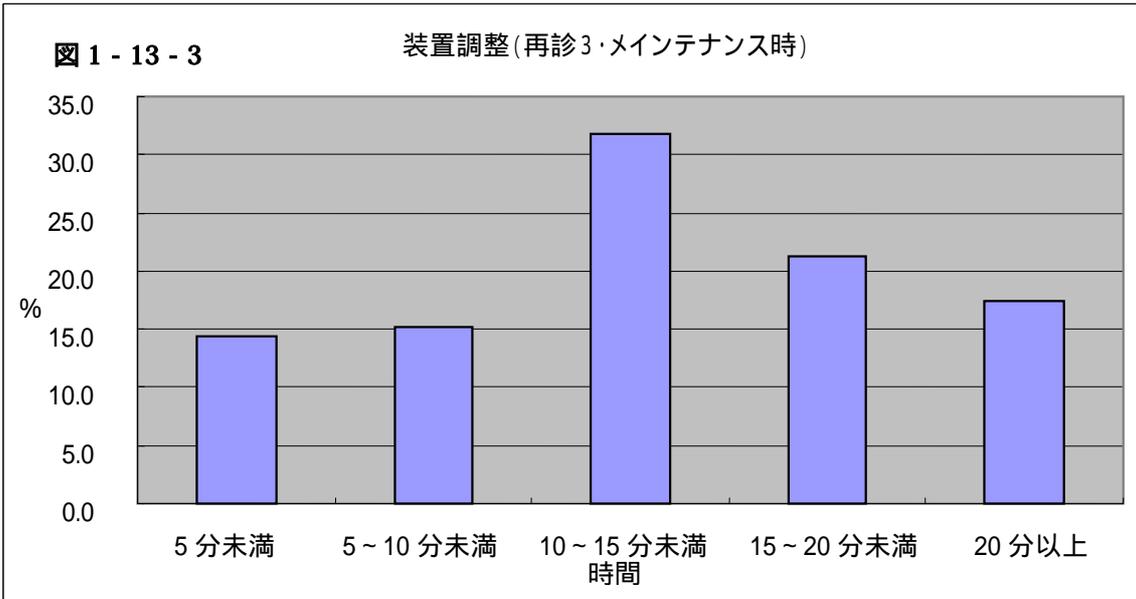
調整に要した時間は、装置装着時平均 8.57 ± 6.11 、中央値 6 分、再診 3 (メンテナンス時) 12.92 ± 8.76 、中央値 10 分であった。装着時は上下装置固定の時間が調査票にあり、固定時間項目に時間を記載している可能性がある。メンテナンス時は歯の違和感や、装置の装着感に対する訴えにより、調整を必要とする時間が長いと考えられる。

表2-12 調整

	総計		再診		再診3(メンテナンス)		難易度 a		難易度 b	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
5分未満	24	13.5	5	10.9	19	14.4	24	14.4	0	0.0
5～10分未満	36	20.2	16	34.8	20	15.2	35	21.0	1	9.1
10～15分未満	51	28.7	9	19.6	42	31.8	47	28.1	4	36.4
15～20分未満	40	22.5	12	26.1	28	21.2	39	23.4	1	9.1
20分以上	27	15.2	4	8.7	23	17.4	22	13.2	5	45.5
合計	178	100.0	46	100.0	132	100.0	167	100.0	11	100.0

平均	11.9	平均	10.0	平均	12.6	平均	11.6	平均	17.0
----	------	----	------	----	------	----	------	----	------





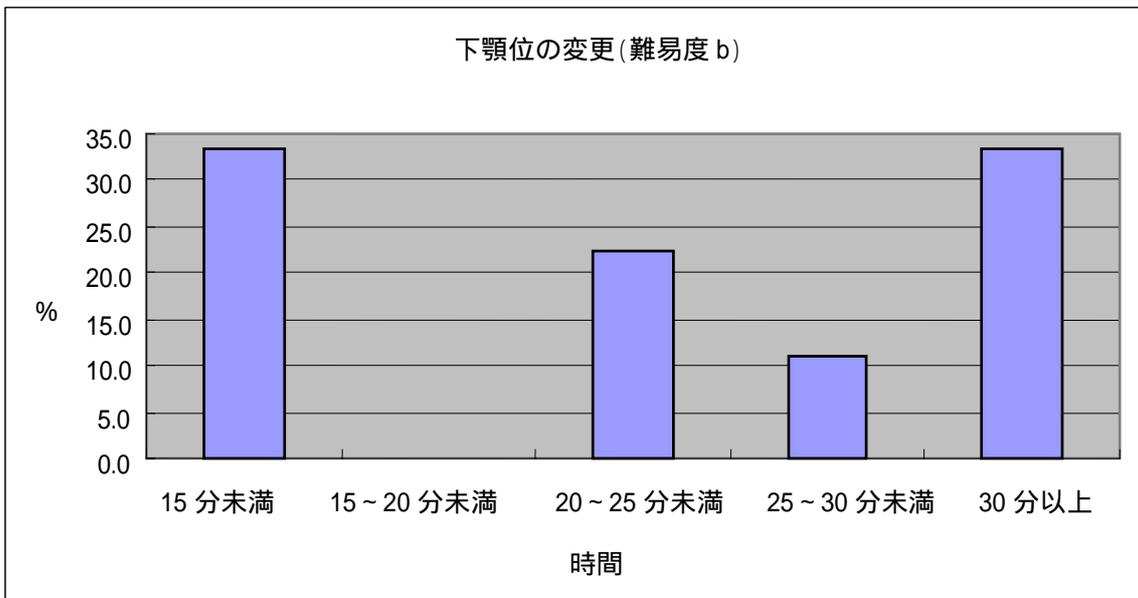
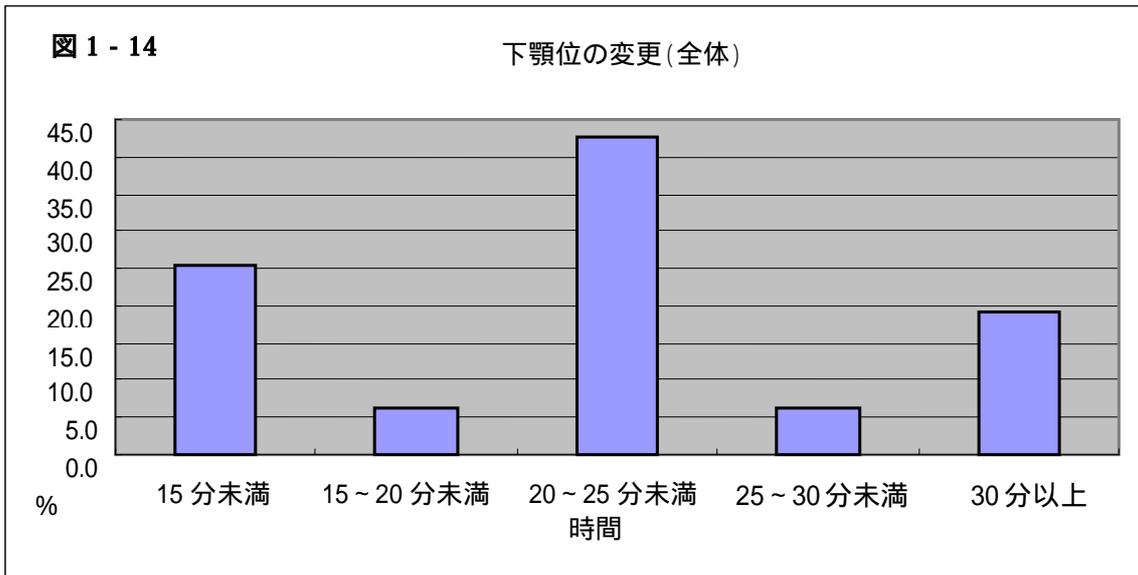
(1 2) 下顎位置の変更に要した時間(分)(表 1 - 5 , 表 2 - 13 , 図 1 - 14)

下顎位置の変更はメンテナンスに入った後にしばしば生ずる。口腔内で上下の装置を一体化させる方式を採用している施設が大半であるが、下顎位置は、長時間使用を続けるうちに(数ヶ月後に生じる場合もある)顎の違和感・疼痛が生じ変更を余儀なくされる場合がある。口腔内装置治療においては、常にこの点を念頭に置き、患者の訴えには細かな点まで厳重に注意をし、定期的な経過観察を行っていく必要がある。

表2 - 13 下顎位の変更

	総計		難易度 a		難易度 b	
	件数	%	件数	%	件数	%
15 分未満	12	25.5	9	23.7	3	33.3
15 ~ 20 分未満	3	6.4	3	7.9	0	0.0
20 ~ 25 分未満	20	42.6	18	47.4	2	22.2
25 ~ 30 分未満	3	6.4	2	5.3	1	11.1
30 分以上	9	19.1	6	15.8	3	33.3
合計	47	100.0	38	100.0	9	100.0

平均	20.1	平均	19.3	平均	23.3
----	------	----	------	----	------



(13) 療養指導に要した時間(分)

(表1-1~表1-5, 表2-14, 図1-15)

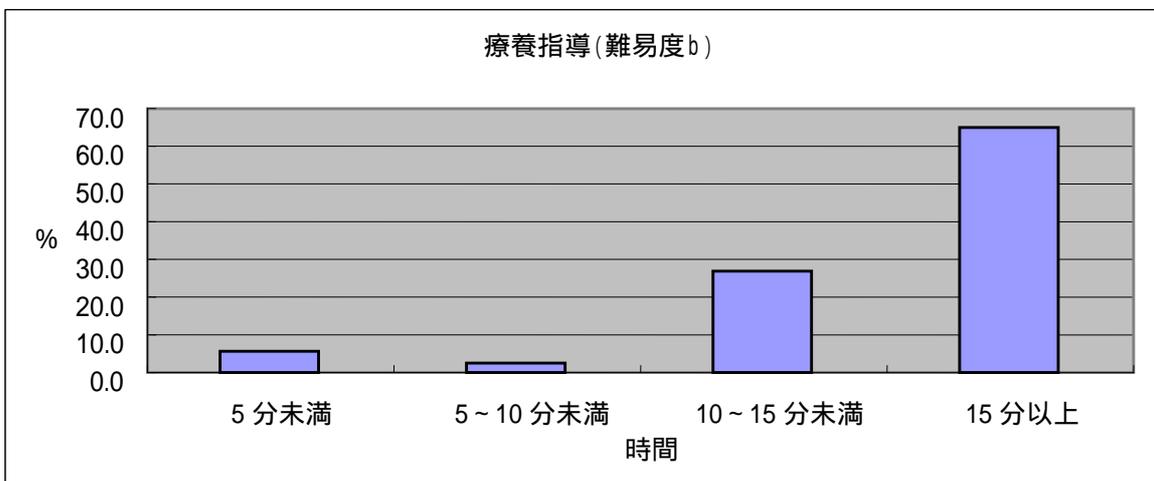
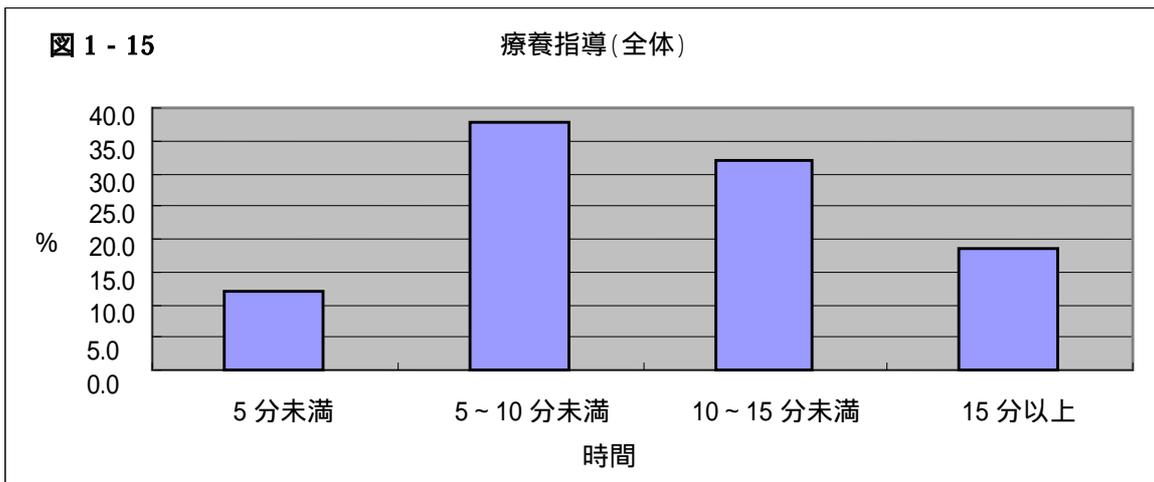
療養指導に要した平均時間は 9.79 ± 7.43 中央値 10 分であった。初診時が最長で中央値 23 分、難易度 b では 45 分と極めて長くなっている。

この行為も標準偏差が大きく施設間での格差、患者間での格差もあると考える。初診時には装置治療を含め本疾患についての指導が十分に行われている現状が明らかとなり、本疾患が歯科特定疾患療養指導料の対象として適切であると言える。

表2-14 療養指導

	総計		難易度 a		難易度 b	
	件数	%	件数	%	件数	%
5分未満	53	11.9	51	12.5	2	5.4
5~10分未満	168	37.8	167	40.9	1	2.7
10~15分未満	142	31.9	132	32.4	10	27.0
15分以上	82	18.4	58	14.2	24	64.9
合計	445	100.0	408	100.0	37	100.0

平均	9.8	平均	8.6	平均	23.3
----	-----	----	-----	----	------



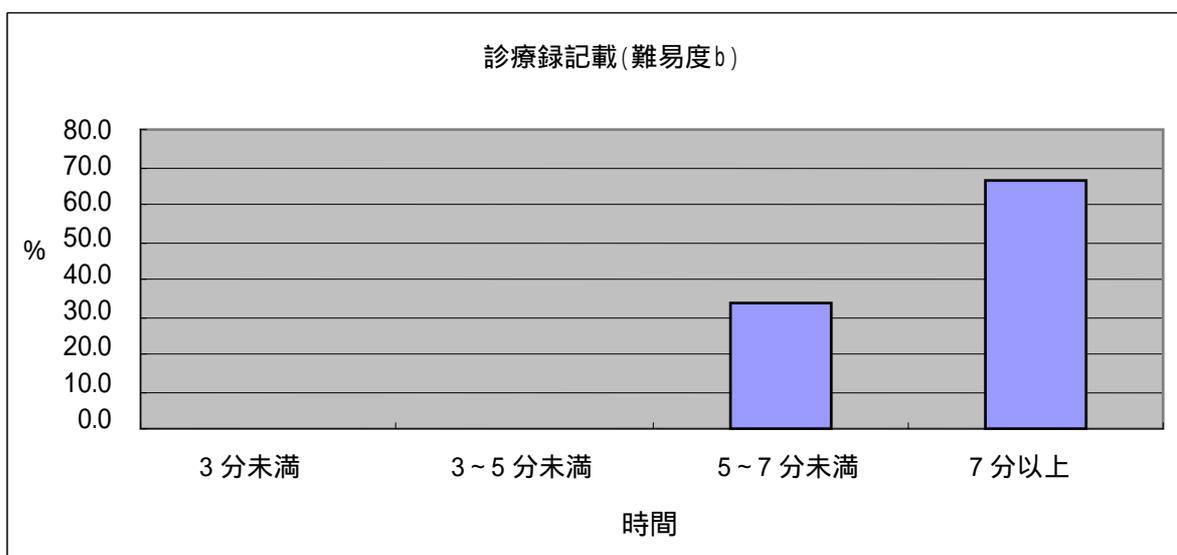
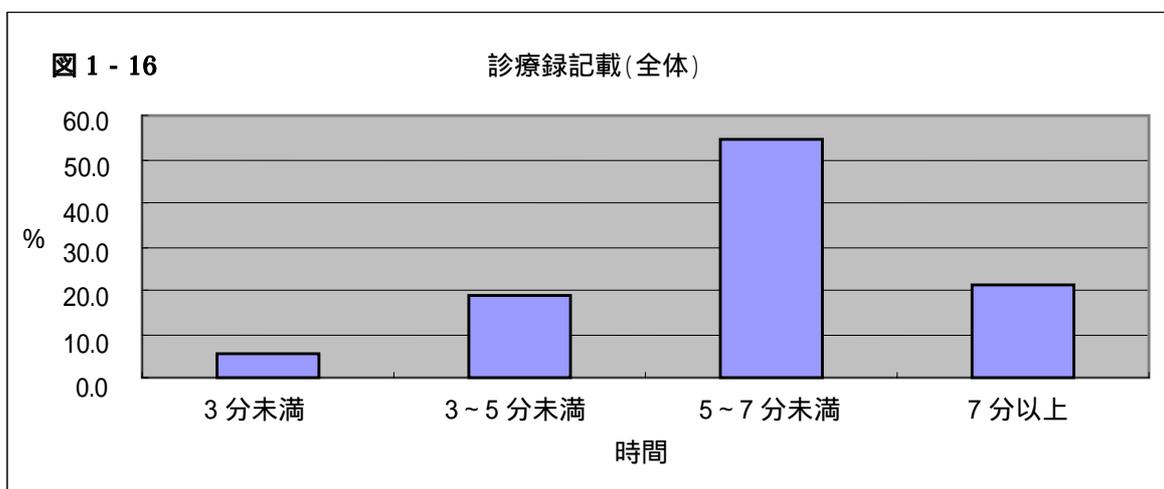
(14) 診療録記載(分)(表1-1~表1-5,表2-15,図1-16)

診療録記載時間は平均 5.73 ± 3.17 中央値 5 分であった。初診時のみ中央値 8 分と 3 分の差があるが、初診時にはインフォームド・コンセントを得る為の説明に多くの時間を割いて行っており当然診療録に記載する内容も多くなったものと考えられる。

表2-15 診療録記載

	総計		難易度 a		難易度 b	
	件数	%	件数	%	件数	%
3分未満	27	5.3	27	5.4	0	0.0
3~5分未満	95	18.7	95	19.1	0	0.0
5~7分未満	276	54.4	273	54.8	3	33.3
7分以上	109	21.5	103	20.7	6	66.7
合計	507	100.0	498	100.0	9	100.0

平均	5.7	平均	5.6	平均	11.1
----	-----	----	-----	----	------



(15) 診療にかかった総時間(分)(表1-1~表1-5,表2-16,図1-17)
 診療の総時間の平均は、 45.69 ± 28.85 , 中央値 40 分であったが、初診と再診では大きく様相が異なり、初診で 60%が 60 分以上に分布している。
 これに対して再診では 30 分~45 分にピークがある。これは、初診での説明や場合によっては印象採得などの作業を進めている結果と見る。

表2-16 診療にかかった総時間

	総計		初診		再診	
	件数	%	件数	%	件数	%
20分未満	64	11.9	0	0.0	64	15.0
20~30分未満	98	18.1	6	5.4	92	21.5
30~45分未満	155	28.7	18	16.1	137	32.0
45~60分未満	87	16.1	21	18.8	66	15.4
60分以上	136	25.2	67	59.8	69	16.1
合計	540	100.0	112	100.0	428	100.0

平均	45.7	平均	68.8	平均	39.6
----	------	----	------	----	------

